

第60回試験研究成果発表会（野菜Ⅰ－果菜類・葉茎菜類）動画配信 発表概要

【日 時】 令和5年2月21日（火）～3月20日（月）

【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

発表1 情報提供

炭酸ガス施用の効果を高める促成キュウリの環境制御

野菜研究室 大木 浩

最近、キュウリ栽培では炭酸ガス施用技術が改めて見直され、施用機器を導入する生産者も増えつつあります。しかし、炭酸ガスは単に施用すれば良いのではなく、効果の高い施用を行うには適切な環境制御も合わせて必要です。そこで、県内で栽培面積が多い促成キュウリのつる下ろし栽培を例に、炭酸ガス施用時の温湿度の調節や草勢管理の考え方について解説します。



促成キュウリ栽培



気温は通風筒を用いて正確に測定

発表2 成果発表

ハウス抑制トマトの優良品種の選定（第72回全日本野菜品種審査会）

～黄化葉巻病に強く、多収の新品種～

野菜研究室 橋本 奈都希

第72回全日本野菜品種審査会において、抑制トマトの優良品種の選定を行いました。選定された優良品種は、「TY みそら 109」、「19K974017」、「C9-178 (SC9-178)」、「はれぞら」、「AS-379」の5品種です。黄化葉巻病に耐病性を有し、収量性に優れた各品種の特徴を紹介します。



1等特の「TY みそら 109」



収穫物審査

発表3 情報提供

おいしくて大玉多収となる「チーバベリー®」の栽培のコツ

野菜研究室 町田 剛史

「チーバベリー®」（品種名「千葉 S4 号」）は平成 27 年に品種登録され、県内のイチゴ狩り園を中心に好評を得ています。これまでの試験結果や現地での優良事例の聞き取りなどから、「チーバベリー®」の品種特性を活かした、おいしくて大玉多収となる栽培のコツをお伝えします。



大粒の「チーバベリー®」



初期の多収が狙える 2 株苗（左）

発表4 成果発表

盛夏どりメロンの高温対策技術

水稻・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 鈴木 結花

東総地域のメロン栽培では、5月下旬から7月中旬にかけて高品質な果実を収穫・出荷しており、市場からは出荷期間の拡大が望まれています。しかし、7月中旬以降の収穫では気温の上昇や日射量の急激な増加に伴う萎れの発生で、正品率や品質の低下が問題となっています。そこで、7月中旬以降に収穫可能な赤肉メロン品種の選定、青肉メロンでの萎れ軽減方法を紹介します。



赤肉メロン「夏のクインシー」
（横浜植木（株））



白黒ダブルマルチによる収穫時の萎れの抑制
左：グリーンマルチ（慣行）
右：白黒マルチ

発表5 成果発表

4～5月のネギ端境期を縮小する栽培技術の確立（1）～春ネギの出荷延長技術～

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 大川 佳織

春ネギ栽培では、4月下旬は抽台が多くなり端境期となりますが、極晩抽性品種「初夏扇2号」及び「羽緑2号一本太」を用いることで抽台率を抑え、4月下旬までの安定出荷が可能となります。これらの品種を使用して、4月下旬に棒ネギや軟白不足のネギの発生が少なく、正品の出荷量を確保するための好適な播種-定植期や栽培の注意点について紹介します。



極晩抽性品種「初夏扇2号」(左)

発表6 成果発表

4～5月のネギ端境期を縮小する栽培技術の確立（2）～夏ネギの早期出荷技術～

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 大川 佳織

2条トンネルを用いた夏ネギ栽培では、早期出荷のための栽培技術の指標が曖昧で出荷が安定するのが5月中旬以降となっています。そこで、夏ネギを5月初旬の早期から出荷するための栽培方法、特に厳冬期から春先のトンネルの適切な温度管理方法、トンネル除去後の土寄せの頻度について紹介します。



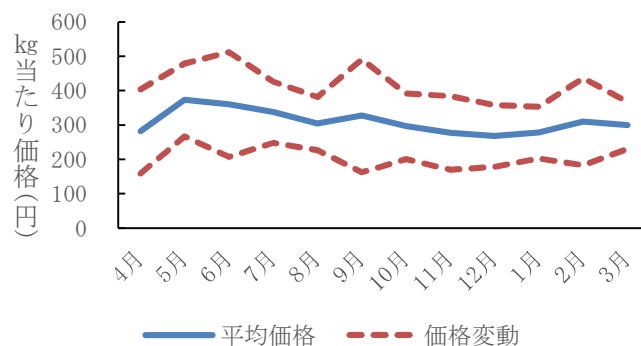
2条トンネルを用いた夏ネギ栽培

発表7 成果発表

ネギ栽培における4～5月どり新作型導入による所得向上効果の推定

研究マネジメント室 西方 圭

千葉県のネギ栽培は主に4～5月が端境期となっています。新たに開発した、極晩成品種を用いた春ネギの収穫延長技術（4月どり）と、2条トンネルを用いた初夏ネギ栽培（5月どり）の2つの作型を導入することで、どれほど所得向上効果があるのか試算しましたので紹介します。



東京中央卸売市場におけるネギの月別平均価格と価格変動（2012年～2021年平均）

発表8 成果発表

ハゼリソウを植栽した秋冬ネギ圃場における土着天敵を活用したネギアザミウマの防除

病理昆虫研究室 大谷 徹

ネギの圃場周囲にハゼリソウを植栽して天敵の発生を促し、ネギアザミウマの増加を抑制する防除技術を紹介します。秋の土寄せ後にアザミウマが増加したときには殺虫剤の散布が必要になりますが、天敵のキイカブリダニの働きを維持したまま防除できる薬剤を選定しました。また、最近千葉県でも定着している、新しい系統を含むネギアザミウマの薬剤感受性を明らかにしました。



ネギ圃場周囲に植栽したハゼリソウ



ネギアザミウマを捕食する天敵
キイカブリダニ

発表9 成果発表

11月どりブロッコリーの優良品種の選定（第69回千葉県野菜品種審査会）

水稻・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 鈴木 結花

第69回千葉県野菜品種審査会において11月どりブロッコリーの優良品種の選定を行いました。優良品種には「ラウンドスター」、「BL-458」、「夢あたる」、「BL-461」の4品種が選ばれました。11月どりブロッコリーの栽培の注意点とこれらの品種の特徴を紹介します。



1位の「ラウンドスター」
(朝日アグリア (株))



立毛審査

発表 10 成果発表

4月のブロッコリー端境期を短縮する栽培体系

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 鈴木 結花

千葉県産ブロッコリーは、秋冬どりの出荷が3月下旬に終わり、春どりの出荷が5月上旬から始まるため、4月が端境期となっています。そこで、極晩生品種「クリア」及び「ゆめさくら」を用いた4月上旬どりと中早生品種「おはよう」及び「恵麟」を用いたトンネル・マルチまたはべたがけ・マルチ栽培による4月中下旬どりを組み合わせた、4月の端境期を短縮する栽培体系を紹介します。



4月8日に収穫した「クリア」



中早生品種のべたがけ・マルチ栽培

発表 11 成果発表

3月どりレタスの優良品種の選定（第69回千葉県野菜品種審査会）

暖地園芸研究所 野菜・花き研究室 小林 由里奈

これまで、年内どりレタス（第67回千葉県野菜品種審査会、令和元年）や厳寒期どりレタス（第65回全日本野菜品種審査会、平成28年）の優良品種を選定してきました。今回は、第69回千葉県野菜品種審査会において、3月どりレタスの優良品種の選定を行いました。優良品種は、「アイススペランザ」、「逸香（いちか）」、「ウィンレー2号（TLE-580）」の3品種です。各入賞品種の特徴について紹介します。



1位入賞 「アイススペランザ」



立毛審査の様子

発表 12 成果発表

安房地域における年内どりレタスの省力化安定生産技術

暖地園芸研究所 野菜・花き研究室 曾我 みちる

安房地域のレタス栽培は、冬期の凍害を防ぐために12月以降はトンネル栽培が行われていますが、狭い水田での作付けのため機械化が進まず労力が不足する傾向にあります。そこで、年内どりレタスのトンネル栽培をべたがけ栽培に代替して作業の省力化を図る技術を開発したので紹介します。



べたがけ栽培の様子



トンネル栽培の様子

発表 13 成果発表

食用ナバナ根こぶ病の発生を予測する ～畑の健康診断・ヘソディム～

暖地園芸研究所 生産環境研究室 鐘ヶ江 良彦

食用ナバナに発生する根こぶ病は生育不良や減収を引き起こす重大な病気ですが、前年の発病状況や土壌 pH などの「畑の健康診断」を行うことによって、圃場の発病しやすさを予測することができるようになりました。圃場の発病しやすさと、それに応じて栽培前にとるべき防除対策を診断できる、健康診断に基づく土壌病害管理「ヘソディム」を紹介します。



左：健全な生育 右：根こぶ病による生育不良



AI アプリ HeSo+